

はくさん

無条件の受容

第 105 号 H30 年春号
伊豆市 法住寺 発行

先日のお詣りで、連れてきた小さな男の子が本堂の中を走りまわる。そのうちに太鼓をガンガンたたき出す。若い母親は困ったような顔をしている。

*

この光景を見ていて随分前に読んだ本の一節「母子像」を思いだしていた。

『若い母親に手をひかれて電車に乗りこんできた二、三歳ぐらいの男の子が、乗客に座席をすこしあけてもらって一人だけ腰かけ、母親の手で靴を脱がされた。……まもなく男の子はむずかりはじめ、母親の持っている乗車券をねだった。母親は困ったような顔をし

「寿量の祈り 敬意と感謝」

大自然 ありがとうございます。
社会の皆さん ありがとうございます。
ご先祖さま、家族の皆さん

合掌 合掌
ありがとうございます。



なんだなあと思った。
そしてジッと見守った。
そのことで子供を叱つたりはしなかった。その後、息子さんはある

たが、傍の乗客に気兼ねをして、乗車券を子供に握らせた。』その後、母親のバックからビスケットをねだり2、3枚もたせたのだが、袋ごとよこせと言いはじめ。あぐく母親のイヤリングまでよこせとむずかり、母親は耳からはずして男の子に握らせた。『少し離れたところでこの様子を見ていて私は、なぜか不意に涙ぐんだ。そしてそれでいいのだと思った。（「現代詩入門」吉野弘より）』

母親から子供に向けての無条件受容、全面肯定が幼い時期には必要だろうと作者は思ったのである。無垢な幼少期の内なるものを全面受容できる母親の深い愛情を想う。

*

これも随分昔の話になるが、ある母親のことを思い出す。息子さんが保育園に入園して初めての運動会。皆と同じ応援所作が出来ず一人でジッと立っていた。それを見ていた母親は、あの子はそこに立っているのがやっとなんだなあと思った。

時期になって急に成長し、自分を肯定できるような成人となり、周りの人々をも受け入れられる安定した人柄になっていったという。

*

躰は大切に子供の人生を左右しかねないが、枠にはめ込み過ぎずに子供がもっている本来のものを伸ばしてやりたいものである。それでも子育て真っ最中の母親には余裕がなく夢中なのだと思う。そしてそれでいいのだと想う。

本堂を動き回る幼児を見ていて、若い頃なら「ここは本堂だぞ！静かにしなさい！」など叱っていたかもしれない。それが愛おしく思うのは、ヒョットシテ歳かな？ 齢を重ね仏さんの世界に近づくのも悪くないなあと思ったりするのです。



お寺のホームページ

<http://juryo.jp/>

検索「伊豆 法住寺」
スマホ対応 ブログも更新、
寺報はカラーで掲載です。

お寺の庭に花いっぱい

昌子寺庭の山務日誌より

正月明けのある日の夕方、外でかわいい足音と声がする。トントントンと裏口の階段を駆け上がって、チャイムを鳴らすと同時に、元気な明るい声での挨拶が聞こえてくる。郵便局の配達の若い女性だった。

以前、時折、配達や集荷に来てくれ、その折に明るい前向き

で真面目な仕事ぶりや礼儀正しさに感心して「若いのにrippぱだね」と声をかけたことがある。すると彼女の話から子供さんのいるお母さんと聞き及んだ。仕事は朝早くから夕方遅くまでと察する。おそらく子育てしながら追われるように働いているに違いないのに、いやな顔ひとつ見せず、日夜走りまわり、家々の玄関でさわやかな風を送ってくれていると思うと、せつないほど、愛おしく思えてくる。

与えられた中で精いっぱい輝いて生きる、めだたないところで、ひたむきに頑張って、時に人々に力を与えてくれるあの笑顔・姿は「仏さまだ」と私には思える。

「ありがとうね」、「気をつけて行ってね」と



見送る私だった。めぐる季節の庭の花を裏口にもひと花いれているが、いつだったかその花に気付いて何か嬉しい一言をもらった。忙しい彼女の心が一瞬でも休まってくれた

のならば、嬉しいことだった。

境内整備作業

本堂が落慶した後、平成17年から境内整備作業をお願いしてまいりました。お陰さまで随分と整備され、皆さまに気持ち良くお詣り頂いております。心より感謝申し上げます。

今まで年間4回、夏と秋の草刈り、冬と春の雑木処理や植樹等をお願いしてきました。整備も進んできましたので冬の作業を2年間に1回にすることが役員会で決まりました。

地区のローテーションは複雑になり

	春彼岸 3月	お盆 7月	秋彼岸 9月	正月 12月
2018	元村1	清水1	小川	西
2019	元村2	清水2	元村3	元村2
2020	清水1	小川	西	
2021	清水2	元村3	元村1	清水1
2022	小川	西	元村2	
2023	元村3	元村1	清水2	小川
2024	西	元村2	清水1	
2025	元村1	清水2	元村3	元村3
2026	元村2	清水1	小川	
2027	西	元村1	清水2	清水2
2028	清水1	小川	元村1	
2029	元村3	西	元村2	元村1
2030	小川	元村3	西	
2031	清水2	元村2	清水1	

ますが、2018年から2031年までの14年間で均等に回るように計画しています。時には直ぐに当番が回ったり、同じ場所になったりすることもあるかもしれませんが、14年間で見て頂きますようお願い致します。

またお仕事の関係で都合がつかなかったり、体が思うように動かなかったりすることもあります。お互いに長い目で見て、認め合い助け合って怪我のないようお願い致します。

護持会役員会、奉仕作業

1月20日新年役員会を行い、平成30年の年間計画等を決定、書院トイレ改修は見積額400万円、内200万円を志納金会計から、200万円を住職が志納することで承認されました。工事は地元のきねや企画さんにお願います。また第1墓地北斜面の墓地清掃では手が回らない上部の草刈り等の作業をして下さいました。

お寺の主な年間行事

主な「行事予定表」は、檀信徒の皆さまにこの寺報と一緒に配りしています。

3月3日(土) 中伊豆立正会
3月21日(水祝) 春季彼岸会
4月12日(木) 花まつり
5月27日(日) 身延山輪番奉仕
8月3日(金) お盆のお施餓鬼
8月7、8日(火、水) 一泊
9月23日(日) 秋季彼岸会
10月21日(日) お会式
11月10日(土) 伊豆連合大題目

トピックス

星祭

今年も1月最後の日曜日28日、星祭を行いました。

厳寒の早朝5時から山内にお経が響き渡り、何とも清々しく厳かな境内となり、身延、三島、伊東等からのお上人方の霊気力あるお経が続き、諸天善神をお迎えしました。

午後1時30分水行し心身を清めます。2時諸天善神の来迎をお願い奉り、星祭り開始。力強く心の奥底に響く読経、ご加持祈祷。本堂満席130名の皆さまの心の奥底にある霊



性と諸天善神とが感応したのです。

雪の境内

何年かぶりに雪が降りました。

本堂の大屋根から落ちた雪は大きな塊となり氷となって暫く融けずに残りました。



洋明さんのおはなし

先日星祭では、まずは仏天にお喜び頂きたく、多くの皆さんと共にお題目をお唱えし、仏天への感謝をかたちにあらわし、今年一年の安穩を一心に祈ることが出来ましたこと御礼申し上げます。ありがとうございました。

*

お寺の中庭には昔からの池があります。この池は山の水を引いており、その中で錦鯉が悠々と泳いでいます。先日この池である事件が起きました。それは一羽の大きなアオ鷺が池の鯉を襲ったのです。この池は、娘やその友だちが「お寺の池は、鯉が一番長生きする池だから」と小さな錦鯉を放したり、住職が餌をあげたり鯉を大切に育てていました。しかし十四程いた鯉はアオ鷺に襲われ、たった一日で四匹ほどになってしまったのです。これも食物連鎖、大自然の中でのこと、私たちも肉、魚、お米や野菜等の命を頂いているなかで、このアオ鷺にだけ「鯉を食べるな」とは言えない様な気もしました。とは言っても、やはり大切に育ててきた鯉、その残された鯉を護ろうと池に住職とネットを張ったのです。

*

御志納金「一月・二月」

清水	山下	秀治殿	尊母葬儀砌
清水	小塚	育伸殿	尊父葬儀砌
西	山田	昌範殿	尊父葬儀砌
西	山田	昌範殿	尊父葬儀砌
沼津市	坂本	広明殿	尊母葬儀砌

お釈迦さまは、私たちが生活する中で生ずる苦しみから皆さんを救いたいと悟りを開かれ教えを説かれました。例えば苦しみは自分の心から生まれること。その本質は我執、執着や、様々な欲にとらわれることから生ずるということを説かれます。さらにその根本は「①生②老③病④死」四苦と、さらにもう四つの苦しみに分けられます。⑤愛別離苦大切な人と別れる苦しみ・大切にしているものを手放す、失う苦しみ。⑥求不得苦 欲しいものが手に入らない苦しみ、思うようにいかない苦しみ。⑦五蘊盛苦 五感で受ける、身心に関わる苦しみ。⑧怨憎会苦 会いたくない人と会わなければならない苦しみ。この①②③④の苦しみを「四苦八苦」と云います。

*

今回のアオ鷺の件で、ただ単に鯉がかわいそう、鯉を襲ったアオ鷺が憎いでなく、そこには大自然の条理、心に「愛別離苦」「求不得苦」などの苦が生ずる事。「諸行無常」いつも同じことはなく、当り前は当たり前でないということも教わりました。

また今回の件を「どう向き合ったらいいのでしょうか？」と仏天に尋ねたならば、きつ

池にネット、見はえは？



と「諦める」を教えて下さるでしょう。仏教の「諦める」の本来の意味は、物事の真理を明らかにする。今回の件は真に大自然のこと、自然の中で生かされている自分たちには力の及ばないこともあると受け止めることが大切なのだと。それを受け止めてどう過ごすかが大事なのだと。

*

住職とネットを張って以来、幸いにも鯉が襲われることはありません。ただ、お寺は山の中にありますから、アオ鷺だけでなく沢山の生き物が住んでいます。これから時には今回のようなことが起きて何の不思議もありません。ただ願わくは、この様なことが起きないようお願いしたいと思います。大自然は仏天の世界、このお山では大自然、仏天に教わることが沢山あります。